

誇れる北中の実現 できる! だれでも! どこまでも!



今週の水曜日、美咲野小学校に授業を見に行く機会がありました。五年生の国語の授業です。表現の効果を言語化して、共感し合いながら、様々な表現があることを学ぶというなかなか難しい内容です。しかし、子どもたちは、がんばろうと思うだけでなく、「知らないおじさんが偉そうに見に来ているから、先生を助けなきゃ」とも思っていたはず。そういう子どもたちの思いと、授業者の「わかる授業に」という強い思いが噛み合いました。最初は何を話合っているのか分からなかったのが、十分もするとそれぞれの班で、積極的な話合いが見られるようになりました。授業の最後には、「もっと話したかった」という振り返りが出るほどでした。やるやん美咲野小五年。わずか四五分での変容に、子どもの凄さと、既視感も感じていました。

その既視感の理由は、八月三十一日、九月八日の期間に行われた本校校内研修の八つの研究授業にありました。手前味噌ですが、どの授業においても明るくて、前向きに学ぶ生徒の姿が印象的でした。特に、二年生の国語科の授業です。大ベテランの平岡馨教諭の授業です。この授業も、表現の効果や作者の意図について話合う内容でした。この授業で明るく話し合う姿が、美咲野小の五年生と重なったのです。易しい内容ではないので、悩む様子もありましたが、あきらめず、ブレず、取り組み姿も重なりました。負けてない!(すぐ張り合う)やるやん二年。

今週、二年生は職場体験でした。各所からお褒めの言葉をいただきました。二年部職員が各事業所を回る表情が、いつになくこやかで穏やかでした。ただ、一方では改善点も同じかそれ以上あったと思います。二年部職員は、いつもの険しい表情でそんなことを語ってもしました。さらに成長する糧にしてくれるでしょう。こうした授業で学ぶ姿、職場体験での姿等に、二年生の底力を感じています。やるやん二年。

美咲野小の五年生を見つめながら、こういう子どもを、良さを保ったまま、中学校でさらに伸ばしていきたいと改めて思いました。落ち込むのではなく、ぶち上げる中一ギャップを目指して。とにかく、やるやん美咲野小五年!やるやん北中二年!